

文化を尊重し

将来の希望を

霞ヶ浦で撃墜された元米海軍兵ら

1945年2月、土浦市の霞ヶ浦西端に撃墜された戦闘機を操縦していた元米海軍兵らが10日、現場近くの同市手野町地区などを訪れた。外務省の「日米草の根平和交流招聘プログラム」の一環。阿見町廻戸にある予科練平和記念館で歴史調査委員を務める住民と交流を深めた。

訪れたのは米国ウェストバージニア州在住のチャールズ・ブラウンさん(91)ら日本で捕虜になった経験がある元米海軍兵2人。70年前、チャールズさん操縦の戦闘機は撃墜され、霞ヶ浦に水中着陸。ゴムボートに脱出したところを地元住民の舟に救助され、東京の大森捕虜収容所に収容された。

その後初めて墜落現場



阿見で住民たちと交流

場付近を訪れたチャールズさんに対し、予科練歴史調査委員の赤堀好夫さん(70)らが車で現地を案内。チャールズさんは「70年前のことではないが、今回、

当時を知る住民たちと交流できたことは大変素晴らしいこと。お互いの文化を尊重し合うことが将来への希望につながると思う」と話した。

【福沢光一】



予科練歴史調査委員の赤堀好夫さん(左)から案内される元米海軍兵のチャールズ・ブラウンさん(右)土浦市手野町の霞ヶ浦湖畔で